

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-98

学校名・団体名	高松市立鶴尾中学校
HPアドレス	http://www.edu-tens.net/tyuHP/turuotyuhp/
コ ー ス	学校支援
活動・研究 テ ー マ	子どもたちの輝きを取り戻すために 「教科指導における 鶴尾型教育と鶴尾型協同学習」の実践
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、これまでも基礎学力及び生活規律の向上等の学校課題に向け、「心の教育」をベースに生活指導、進路指導等の取組を継続してきた。しかし、生徒在籍数の減少とともに、これまでの取組では具体的な改善が進まず、課題へのアプローチにも自信が持てない現状が見られた。そこで、学びの創造と授業の改革に視点を移すことで、基礎学力の向上と生徒指導上の諸問題の解決をはかることをねらいに研究に取り組むこととした。</p> <p>本研究の内容は次の2点である</p> <p>○教科指導における鶴尾型教育への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教科での少人数指導の徹底（45分授業の工夫を含む） ・生徒支援機能の充実（放課後の学習支援等） ・特色あるカリキュラムの推進 <p>例：0校時（TMS（25分間）：主としてドリル学習）</p> <p>※TMS：鶴尾モーニング・スタディ</p> <p>○鶴尾型協同学習への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の実態に合わせた「協同学習」の実践 <p>（目的：居場所づくり、なかまづくり、学力向上）</p> <p>※「協同学習」は佐藤学氏（教育学者 提案）</p> <p>※研修は4つのプロジェクトグループを中心に進める</p>	

<活動・研究報告>

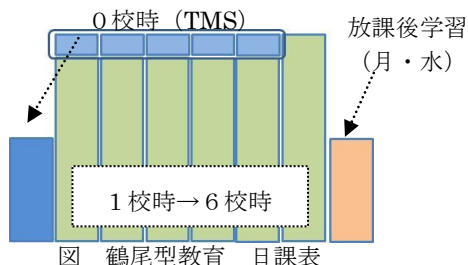
1. 年間活動計画 ※実践の検証・評価に関わる内容

月	鶴尾型教育 (主に学年団)	鶴尾型協同学習 (主に学習指導部会)
4	生徒理解 (全国学力・学習状況調査等) ※	各プロジェクトの組織化・研究計画作成
5	鶴尾型教育の保護者・生徒への説明 TMS等の実践内容の検討・実践	各プロジェクト 研究テーマ決定 (設定理由) 研究の方向性検討 公開授業の指導案作成
6		研究の深化 ※ ・学校訪問: 協同学習 ・協同学習公開授業 (全職員) ○指導者 スーパーバイザー
7	・学校評価 (中間) ※	1学期の研究のまとめ 研究大会参加→職員研修 (報告)
8	TMS等の実践内容の振り返り	中間報告 (職員研修)
9		生徒理解・研究の深化 (実践・意識調査 等) ※
10	生徒理解 (県学力・学習状況調査等) ※	要請訪問全体計画立案
11	・「学び」への講演 (講師は卒業生 (大学教授))	要請訪問
12	・外部アンケート (生徒・保護者) ※ ・学校評価※	学校評価※
1		鶴尾型協同学習についての現職教育
2	・保護者聞き取り調査※ ・学校関係者評価委員会※	研究の深化 ※ ・協同学習公開授業 (各プロジェクト及び全員) ○指導者 スーパーバイザー
3	研究のまとめ (研究紀要の作成) ※	

2. 成果と課題

(1) 鶴尾型教育の成果

- ・実践の評価指針としている学力・学習状況調査等からは学力向上への効果が一部見られる。
- ・取組に対して、職員はもとより保護者からも理解を得ている (肯定的評価→学校評価 88% 保護者アンケート 90%)。
- ・学校関係者評価委員会では、実践の推進とさらなる研究への取組が指摘された。また、学校評価からは TMS の質的な向上や放課後学習の工夫、職員の共同意識を高めることなどが継続の課題と意識されている。



(2) 鶴尾型協同学習の成果

- ・自主的な公開授業 (年間3回) の実践ができた。
(指導者 (継続指導者であるスーパーバイザーを含む) からは、研究の進行とともに子どもたちの学習に対する意識の変化を指摘される。)
- ・職員の意識としては、協同学習のスタートマニュアルにもとづいた実践と本プロジェクトの推進に対して、さらなる継続研究が必要との指摘がある (肯定的な評価→学校評価 前項 43% 後項 39%)。

